

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「確かな学力をもち、たくましく生きぬく創造性豊かな実践人を育成する」を教育目標とし、具体的なスローガンとして、「あいさついっぱい、元気いっぱい、笑顔いっぱい 会瀬っ子」を掲げている。これを受けて人権教育では、「好ましい人間関係をつくり、誰に対してもわけへだてしない子どもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身につけた子どもの育成」「集団活動を通して、おたがいに認め合い、助け合う子どもの育成」の三つを目標とした。

会瀬小学区は、地域のまとまりも強く、学校への協力も多大である。地域とのかかわりや学級内での児童同士のかかわりの中で、互いを理解し、尊重していこうとする態度の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 一人一人を大切にされた学級経営の充実
- イ 異学年交流の場の設定
- ウ 地域行事への積極的な参加

2 実践内容

(1) 一人一人を大切にするために

ア 一人一人が生きる学級経営の工夫

児童一人一人が活かされるよう、学級では係活動のほかに、一人一当番を取り入れている。当番活動は一人一人が役割をもって、学級のために活動できる内容で設定している。主に学習に関する当番、生活に関する当番、給食に関する当番で役割を分担し、一人一人が自分の役割を意識して取り組めるように工夫した。週番制にし、全児童がほとんどの当番を体験するようにしている。

イ 互いの良さを認め、助け合う集団づくりの工夫

児童同士が相手のよいところを見つけ合い、互いに認め合うことをねらいに、学級では、友だちのよいところを帰りの会で発表するようにしている。どんな小さなことであっても素晴らしいと思った行動や頑張っているなど思ったこと、すごいなど思ったこと、感謝の気持ちを伝えたいこと、などを互いに見つけ発表し合っている。また、掲示物として「こころの木」に同様に友だちのよいところや素晴らしいところをカードに書き、掲示している。



(2) 異学年交流の活動

ア ふれあいタイムでの縦割り班遊び

本校では、毎週木曜日の昼休みを長くにとって、たくさんの友だちと交流する時間を確保している。学級や学年または自由に遊ぶ日と、縦割り班で遊ぶ日を設定している。縦割り班では、校庭や体育館をうまく活用し、1年生から6年生までを縦割りに分けた班で計画的に遊ぶようにしている。なかよし集会として、縦割り班対抗の児童集会も設定している。

イ 会瀬っ子祭り

本校では、各学級がそれぞれ工夫してパビリオンを開き、来てくれた人に楽しんでもらう行事を11月に行っている。学習内容の延長として、クイズやゲームを考え、準備や運営を児童が行い、全学年の児童や併設されている会瀬幼稚園、また保護者や地域の方々の対応をする。各パビリオンで遊ぶことも対応することも、異学年の児童とふれあうよい機会となっている。

(3) 地域行事への積極的な参加

ア 三世代敬老の集い

9月に行われている『会瀬学区「三世代敬老の集い」』に全校児童が参加している。お年寄りに対して、敬いの気持ち・感謝・いたわりの心をもつことや、地域の人々と触れ合うことをねらいとしている。学年やブロック単位で、歌や踊りなどの発表を行ったり、児童一人一人が書いた手紙をお年寄りに渡したりしている。

イ 会瀬秋祭り

10月に行われている会瀬秋祭りに、作品の展示の部と発表の部で参加している。全児童の絵画や習字などの作品を展示したり、代表学年やクラブによるダンスや合唱、合奏の発表をしたりしている。

ウ 浜の焚きあげ祭

毎年1月15日に地域で行われている古来からの行事に全校児童が参加している。行事の由来や昔の会瀬の様子などを知るとともに、地域に対する興味・関心と郷土愛を高めることがねらいである。凧上げの見学や浜太鼓の鑑賞、児童一人一人が持参した正月飾りや短くなった鉛筆などを燃やしている。

3 成果

児童が互いを見つめる機会を設けていることにより、友だちと認め合い助け合うことができるようになってきている。自分の居場所を実感するだけでなく、人のため学級のために何かをしようとする姿勢も育ってきている。また、本校には年間を通して地域と連携して行う行事があり、家庭や地域と連携を図る様々な体験活動を通して、豊かな心や他者と関わる力が養われている。

II 今後の課題

行事や学級活動では意識的に実践しているので、学習活動や授業の中での認め合い、助け合いをさらに大切にし、共に伸びる喜びが味わえる学級経営に努めたい。